27　次の文章は、唐の太宗と長孫皇后についての逸話である。これを読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で返り点および送り仮名を省いたところがある。 〈東京大〉　二〇一四年度出題

　　　公　主　㆓ 出　㆒。上　㆓ 公　　皇　　㆒㆑ 、　㆑ 、㆓ 有　㆒ 資　 ㆓ 於　　　長　公　㆒。魏　徴　　、「昔　　明　帝　㆑ ㆓ 皇　㆒ 、『　子　　㆘ 与㆓ 先　　子㆒ ㆖』。皆　㆑ ㆓ 楚・　㆒。今　資㆐㆓ 公　㆒

㆓ 於　長　㆒、ａ㆑ ㆑ ㆓ 於　明　帝　之　㆒ 乎」。上　㆓ 　㆒、　㆓ 皇　㆒。后　　、「妾　　㆔ 陛

称㆐㆓　魏　㆒、不㆑ ㆓ 　㆒。ｂ今　㆘ 　㆓ 礼　㆒

㆗ 人　主　之　㆖、　㆓　社　稷　之　㆒ 也。妾　与㆓ 陛

下㆒ 結　　㆓ 夫　㆒、 ㆓ 恩　㆒、㆑　　　㆓顔　㆒、不㆔ 　　㆓ 威　㆒。ｃ　㆓ 人　臣　之　疎　㆒、　　抗　 ㆑ 。陛　下　㆑ ㆑ ㆑ 」。　㆘ ㆓中　㆒ ㆓ 銭　㆒ 　㆖㆑ 。

　上　　㆑ 、 、「ｄ シト㆑㆓ 　田　舎　㆒」。后　㆑ ㆑ 。上　、「魏　徴　毎　廷　㆑」。后　、㆓ 朝　㆒㆓ 于　㆒。上　　㆓ 　㆒。后　、「妾　 主　 臣　。今　魏　　、㆓ 陛　下　之　㆒故　也。ｅ妾　敢　不　賀」。上　　。 （『資治通鑑』による）

〔注〕○長楽公主──太宗李世民（在位六二六～六四九）の娘。

○出降──降嫁すること。

○有司──官吏、役人。

○資送──送別のとき金銭や財貨を与えること。

○永嘉長公主──高祖李淵（在位六一八～六二六）の娘。

○魏徴──唐初の政治家（五八〇～六四三）。

○楚・淮陽──楚王劉英と淮陽王劉延のこと。いずれも後漢の光武帝の子、明帝の異母兄弟。

○結髪──結婚すること。

○中使──天子が派遣した使者。

○朝服──儀式の際に身につける礼服。

問１　「得㆑無㆑異㆓於明帝之意㆒乎」（傍線部ａ）を、明帝の意が明らかになるように平易な現代語に訳せ。

問２　「今観㆘其引㆓礼義㆒以抑㆗人主之情㆖、乃知㆓真社稷之臣㆒也」（傍線部ｂ）を平易な現代語に訳せ。

問３　「況以㆓人臣之疎遠㆒、乃能抗言如㆑是」（傍線部ｃ）を平易な現代語に訳せ。

問４　太宗が怒って「会須㆑殺㆓此田舎翁㆒」（傍線部ｄ）と言ったのはなぜか、簡潔に説明せよ。

◎問５　長孫皇后はどのようなことについて「妾敢不賀」（傍線部ｅ）と言ったのか、簡潔に説明せよ。

【解答と採点基準】

問１　Ａ我が子に領地を与える際、先帝の子の半分しか与えなかった明帝のお考えとＢ相違することになるでしょう。

Ａ＝６〔「我が子を先帝の子よりも厚遇すべきではない、という明

帝の意向」などの表現も可。〕

Ｂ＝４〔「相違することがないといえるでしょうか、いや、いえま

せん」という反語の定型の訳も可。ただ設問の「平易な現代語に

訳せ」という指示と解答欄のスペースを考えて解答例のようにし

た。〕

問２　Ａ今、魏徴が父である先帝に対する礼義の話を引用して主君の私情を抑え

たのを知って、Ｂはじめて彼が真の国家の大任を引き受ける臣だとわかりま

した。

Ａ＝５〔「礼義」は「正しい道」「礼のさだめ」「人として行うべ

き道」などの表現も可。〕

Ｂ＝５〔「はじめて」は「やっと」も可。〕

問３　Ａまして魏徴は夫婦ほど親密でない臣下という立場でありながら、Ｂこのように陛下に反論できたのです。

Ａ＝５〔「主君と臣下という離れた立場」「身内でもない臣下の立

場」などの表現も可。〕

Ｂ＝５〔「反論できたことは立派です」なども可。〕

問４　魏徴が朝廷で事あるごとに直言して恥をかかせるから。

主語の「魏徴」がなければ０。「直言」は「諫言」も可。

問５　Ａ臣下の魏徴が直言できるのは、Ｂ主君の太宗が賢明である証拠であること。

Ａ＝５〔「直言」は「諫言」も可。〕

Ｂ＝５〔「賢明」は「英明」「明君」「明主」なども可。〕

【書き下し文】

　にせんとす。公主はのむなるをて、にをし、にしてすること長公主にせしむ。めてく、「のをぜんとして曰く、『がにの子とぶをんや』と。・にせしむ。公主に資送することにするは、明帝のになることきをんや。」と。上のをりとし、りて皇后にぐ。后じて曰く、「の魏徴をするをくも、其のをらず。今其のをきて以てのをふるをて、ちののたるを知るなり。妾陛下としてとり、にをくるも、ふにずにをひ、へてしくをさず。してのなるを以て、乃ちくすることくのごとし。陛下はざるべからず。」と。りてをしてをして以て徴にふをふ。

　上てよりり、りて曰く、「ずらくのをすべし。」と。とすかをふ。上曰く、「魏徴をむ。」と。后きて、をへてにつ。上きて其の故をふ。后曰く、「妾聞くならくなればなりと。今魏徴の直なるは、陛下の明なるにる故なり。妾敢へてせざらんや。」と。上乃ちぶ。

【現代語訳】

　（太宗李世民の娘の）長楽公主が今にも降嫁しようとしていた。太宗は、長楽公主は皇后が産んだ子であるので、特にこの娘をかわいがり、官吏に命じて送別の金銭や財貨を、永嘉長公主（李世民の父の李淵の娘）の倍の額にしようとした。魏徴は（太宗を）諫めて言った、「昔、漢の明帝は皇子に領地を与えようとしたとき、『我が子をどうして先帝の子と同等に扱うことができようか。（いや、できない。）』と言いました。（そして子どもたちには）皆、（先帝の子である）楚王劉英と淮陽王劉延の半分くらいの領地を与えました。今、長楽公主に金銭や財貨を贈られますこと、永嘉長公主の倍になさるというのは、

問１明帝のお考えと相違することになるでしょう。」と。太宗はその発言をそのとおりだと思い、（部屋に）入って皇后に告げた。皇后は感嘆して言った、「私はしばしば陛下が魏徴をほめて重用なさるのを聞いておりましたが、その理由を知りませんでした。問２今、魏徴が父である先帝に対する礼義の話を引用して主君の私情を抑えたのを知って、はじめて彼が真の国家の大任を引き受ける臣だとわかりました。私は陛下と結婚して夫婦となり、いつも恩恵を受けながらも、（私が）発言するときは必ず（陛下の）顔色をうかがい、軽々しく（陛下の）威厳を傷つけることのないようにしております。問３まして魏徴は夫婦ほど親密でない臣下という立場でありながら、このように陛下に反論できたのです。陛下は（彼の意見に）従わなくてはなりません。」と。そこで（太宗に）使者を遣わしてお金や絹を届けて魏徴に下賜することを請うた。

　かつて太宗は朝廷から帰り、怒って言った、「必ずこの田舎じじいを殺してくれよう。」と。皇后は誰のことを言っているのかを尋ねた。太宗は言った、「魏徴は朝議のたびに（直言して）私に恥をかかせるのだ。」と。皇后は（その場から）退いて、儀式の際に身につける礼服を着て庭に立った。太宗は驚いてその理由を尋ねた。皇后は言った、「私は君主が賢明なら臣下は直言すると聞いております。今、魏徴が陛下に直言するのは、陛下が賢明でいらっしゃるからです。（そのことを）私はどうしてお祝いしないことがありましょうか。（いや、お祝いします。）」と。太宗は喜んだ。